

学術団体名：公益社団法人 日本畜産学会  
 学術刊行物の名称：Animal Science Journal  
 事業期間：平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

本取組は、日本畜産学会の英文機関誌Animal Science Journal（ASJ）のコンテンツ向上・国際発信強化を目的としたものである。ASJは我が国の畜産学領域における優れた研究成果を、主に日本国内の学会員に発信すべく1924年に刊行された日本畜産学会報を起源とする。ASJは、現在では狭義の畜産学にとどまらず、食品安全性や医学分野をも対象とし、動物に関する生命科学全般を広くカバーする総合誌としての地位を確立しているオンラインジャーナルである。ASJが名実ともに国際的なジャーナルになるためには国際情報発信力が欠かせない。ASJの広報活動強化と出版内容を向上するため、以下の取組を行うこととした。

#### I. ASJの国際的な広報活動強化のための取組

1) オープンアクセス論文を増やし、アクセス数と引用数(IF)の上昇。2) 海外での広報活動。3) 仮想出版号(Virtual Issues)を再編整備によるプロモーション。

#### II. ASJのコンテンツ向上・国際発信強化のための取組

1) 編集体制の拡充と強化(海外編集委員の増員等)。2) 編集支援システム(PublonsやORCID)の周知による審査の質の向上・迅速化。3) 審査員賞(ASJ Reviewers Award)の授与を継続。4) 掲載のさらなる迅速化(バックログを解消)。5) 投稿・査読システムの向上。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

I. 北米欧州、中南米中近東からの投稿数の割合を増やし(各25%)、IF：2.0まで向上させることが目標である。

II. 海外編集委員を事業完了時までまでに30人にし、受理から掲載までの期間を180日までに短縮させることが目標である。

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

#### I. ASJの国際的な広報活動強化のための取組

1) 毎年6編の論文をオープンアクセス化し、アクセス数は大きく増大している。IF値は、申請時(2015) IF1.045→現在3年目(2018) 1.301と、3年目の目標1.5には届いていないが上昇している。2) 毎年2大会以上の国際学会で広報活動を行っている。論文投稿数については南米や中近東の地域からの投稿が増えている。3) ASJのホームページにある仮想出版号(Virtual Issues)を再編整備し、トピックスを4種類増やした。

#### II. ASJのコンテンツ向上・国際発信強化のための取組

1) 各国の畜産学関連団体と連携をすすめるため、1年目(2017)にスペインとニュージーランドの研究者、2年目(2018)にアメリカの研究者、3年目(2019)にインドネシアの研究者を編集委員に迎えた。海外の編集委員数は応募時点13人→3年目(2018)16人となった。2) 編集支援システム(PablonやORCID)について会報に掲載し、年次大会のセミナーにて周知している。3) 優秀審査員賞を1年目(2017)は14名、2年目(2018)は11名、3年目(2019)は11名に授与した。4) 2年目にASJの発行頁数を増やしバックログを解消した。それにより受理から掲載までの期間を300日から110日に大幅短縮し、目標を達成した。

### ・今後の計画

#### I. ASJの国際的な広報活動強化のための取組

引き続きオープンアクセス論文を増やし、アクセス数と引用数(IF)の上昇(IF=2.0)を目指す。海外での広報用ブースの設置、広報ポスター掲示、プロモーショングッズ・リーフレットを配布による広報活動を引き続き実施する。また、Virtual Issuesのリーフレットを作成・プロモーションを行う。

#### II. ASJのコンテンツ向上・国際発信強化のための取組

引き続き編集体制の拡充と強化(海外編集委員の増員等)を行い、学会同士の交流を進める。審査員賞(ASJ Reviewers Award)の授与を継続し、受理から掲載までのさらなる期間短縮(60日)を目指す。

